

☆題目：「見えないからできないんじゃない、見えないからこそできるんだ！」

～自転車日本縦断挑戦と陸上協議世界一への道～

☆プロフィール

今井 裕二（いまい ゆうじ） 1967年7月11生まれ（59歳）

高校2年の夏、眼の病気のため中学から続けていた陸上競技を断念する。22歳の時、下関市立大学を3回生で中退して盲学校に入学する。すると、全盲のクラスメイトが音に向かって全力疾走する姿に感銘を受けて、再び陸上競技を始める。2000年にシドニーパラリンピック出場を3度目の挑戦で果たす。その後は、障害者の種目を障害の有無に関係なく誰もが体験できる

「ノーマライゼーション陸上スポーツ大会」の主催、全盲競技者として一般の陸上競技大会への門戸開放、一般大会の短距離種目での優勝等、ユニバーサル陸上の実現を目指した活動を継続して実践する。2013年からはマラソン競技に挑戦している。

また自転車では、26歳の時、二人でペダルを漕ぐタンデム自転車に出会い、一人では自転車に乗れなくなった自分が再び風を切って進めることに感激する。28歳で腎不全腹膜透析となった大学時代の先輩と一緒に、日本縦断を試み無事達成。現在はNPO法人兵庫県障害者タンデムサイクリング協会理事長として、障害者におけるタンデム自転車の啓発・普及に向けた活動を約30年以上実践し、2023年には念願であった全国の公道すべてで、タンデム自転車走行の解禁を実現させる。神戸市西区在住。視力は光覚弁（光を感じる程度）。

※履歴：1990年 下関市立大学経済学部国際賞学科中退

1993年 兵庫県立盲学校高等部専攻科理療科卒業

1996年 筑波大学理療科教員養成施設卒業

1996年 兵庫県立淡路盲学校高等部理療科教諭として赴任

2000年 国立神戸視力障害センター厚生労働教官として赴任

2005年 兵庫県立盲学校高等部理療科教諭として赴任

現在、兵庫県立視覚特別支援学校高等部理療科教諭

※陸上競技について

☆短中距離種目

2004年5月 第15回日本障害者陸上競技選手権大会（長居）

全盲の部 400m（日本新）、100m優勝

2005年7月 第16回日本障害者陸上競技選手権大会（長居）

全盲の部 800m優勝（日本新）、100m優勝

2007年9月 第26回兵庫マスタース陸上競技選手権（ユニバー）

一般の部（40～44歳） 100m優勝、60m優勝

2009年10月 第20回日本マスタース選手権混成競技（金沢）

一般の部（40～44歳） 5種競技6位入賞（走り幅跳び・やり投げ・200m・円盤投げ・1500m）

☆跳躍種目

1998年7月 IBSA第1回世界視覚障害者陸上選手権（マドリッド）

全盲の部 三段跳び銅メダル、走り幅跳び6位入賞

1999年1月 第7回極東・オセアニア地区身体障害者スポーツ大会（フェスピック）

（バンコク） 全盲の部 三段跳び金メダル、走り幅跳び銅メダル

2000年10月 第10回パラリンピック大会（シドニー）

全盲の部 三段跳び6位、走り幅跳び7位入賞

2003年8月 IBSA第2回世界視覚障害者陸上選手権（カナダ・ケベック）

全盲の部 三段跳び銅メダル、走り幅跳び7位入賞

☆マラソン種目

- 2017年 3月 南部トリムマラソン（沖縄） ハーフマラソン全盲の部優勝
- 2017年12月 シンガポールマラソン ハーフマラソンに招待選手として出場
- 2021年12月 第36回青島太平洋マラソン（宮崎） フルマラソン全盲の部優勝
- 2025年11月 第33回福知山マラソン（京都） フルマラソン全盲の部3年連続順優勝

※タンデム自転車について

- 1995年 8月 タンデム自転車で日本縦断に成功（北海道宗谷岬～沖縄県与那国島西崎）
- 1998年10月 「第1回兵庫障害者タンデムサイクリングを楽しむ会」を武庫川サイクリングコースで開催（現在まで毎年開催）
- 2008年 7月 兵庫県道路交通法施工細則が改正され、障害者の移動手段としては全国で初めて合法的に公道乗車が許される。
- 2009年 7月 当協会が「平成21年度ひょうごユニバーサル社会づくり賞」を受賞
- 2010年12月 当協会が兵庫県よりNPO法人として認証
- 2011年12月 東京都選手権（ロードレースの一般大会） ノービスの部優勝
- 2023年 7月 東京都が公道走行を許可し、全国すべての公道走行が可能となる。
- 2026年10月 「第29回兵庫障害者タンデムサイクリングを楽しむ会」を実施予定
- 2027年 8月 タンデム自転車での2度目の日本縦断に挑戦予定

